

きいちレポート 10

平成26年3月議会報告



春眠暁を覚えず。桜花爛漫の候。みなさま、お元気でしょうか。
きいちレポート10をお届けします。このレポートも10号となりました。
今回は予算審査の重要議会をレポートします！

ごあいさつ

ご意見はブログ <http://pokonin555.asablo.jp/blog/> にお寄せ下さい！

現政権は、デフレを止め経済を復活し、成長による富の再生をめざして様々な政策を打ち出しています。昨年度の補正予算だけで5.5兆円。平成26年度予算では、95.8兆円もの最大予算を3月中にスピード成立させました。収入増のため消費税増税もやむを得ませんが、ならば地域活性化のために用意された、国の示す様々な事業メニューを機敏にキャッチし、みずからの行政施策を進めるチャンスとすべきでしょう。3月議会では、吉川市が、国の引いた政策ルールに乗るための準備はできているのか、計画の執行体制や計画策定を切り口に、質問しました。

行政計画の執行体制について

戸張市政は、16年目に入ります。これまでの数々の成果を継承するとともに、さらなる事業・施策の達成と新たな戸張カラー事業の提案、それを支える戦略的な計画執行体制が必要でしょう。

問 計画の事業目的にそった執行体制や人材の登用システムを構築するべきでは。

答 総合振興計画を推進するため、行政ニーズに的確に対応できる組織機構を編成し取り組んで行く。また年功序列や固定観念にとらわれず、職員の資質を見極め、優秀な人材を積極的に登用していく。

問 予算執行権限や裁量権を拡大すべきでは。

答 予算編成後に緊急的な必要が生じた場合、執行権限の範囲で流用対応をしており、現行でも担当部門に裁量権が与えられている。

問 計画の整合性をはかるべき。

答 実施計画と行財政改革プランの整合性をとることは、計画の実現性を高めるための方策と考えられ研究したい。



建設が進む吉川橋仮橋

個別計画の策定について

「人・農地プラン」は、耕作受託している農業者と土地所有者等の話し合いが実効性ある計画として肝要ですが、市の役割や取組み姿勢について質問。

問 農地集約化の計画策定は、地域関係者全ての話し合いが鍵となるのではないかと。

答 国が進める業務内容が解り次第、準備に取り組む。農地中間管理機構に関しては、今後農協など関係機関と連携し協議を進めていく。市単独の計画策定の考えは無く、機構から委託される業務を地域の担い手農家や農地の出し手に情報提供していくことが重要と考える。



開発が予定される美南駅周辺から美南駅を望む

問 国が示したインフラ長寿命化行動計画の策定を急ぎ、国の資金ルールに乗るべきではないかと。

答 市では共保・高久雨水ポンプ場の長寿命化計画や橋梁長寿命化修繕計画を策定した。今後ポンプ場の機械・電気設備の更新工事、橋梁の修繕・道路ストックの点検などで国庫補助金を活用していく。



3月議会の感想：本議会で、計画の執行体制を取り上げたのには理由があります。1年間の財政計画というべき予算の執行管理に疑問を感じたからです。例えば民生費。平成25年度当初予算の総額は74.1億円。6月に0.3億、9月に1.9億、12月に1.0億円とそれぞれ増額補正し、3月の最終補正で3.8億円の減額補正。結果として予算は73.6億円と当初予算より減った。途中の補正は何だったのか？予算見積りや執行管理に問題があるのではと思えたのです。(ˆoˆ)


<http://pokonin555.asablo.jp/blog/>

[きいちレポート！！](#)
 検索